

KOMEI@

ユーストーク 参加者が多彩な意見

幼児教育の支援を巡り活発な議論

公明党青年委員会（委員長＝矢倉克夫参院議員）の「ユーストークミーティング」（ユーストーク）が全国各地で活発に開かれています。実際、どんな意見が交わされているのでしょうか？ その模様を紹介しましょう。



活発に意見を交わす矢倉委員長（テーブル中央）ら＝3日 東京・荒川区

3日に東京都の荒川区内で開かれたユーストークには、矢倉委員長が出席。党都本部青年局長の慶野信一都議も駆け付け、2グループに分かれてトークが始まりました。矢倉委員長のグループには20～30代の社会人と学生の8人が参加しました。最初に発言したのは、会社員の関口雄一さん（36）。「年金や介護な

東京・荒川区

どの社会保障制度を、社会に出るまで詳しく知る機会がない。義務教育に盛り込めないか」と提案すると、矢倉委員長は「非常に大事な意見だ」と応じ、「例えば社会保険労務士から制度を学ぶなど、必要な知識を得る機会をつくってほしい」と語りました。保育士の保坂秀美さん（23）は、日本語ができない外国籍の子どもなど、サポートが必要な子どもがいると、現状では人手が足りない指摘。保育補助として働く中原沙璃さん（22）は「保育士に遊んでいるだけ」という見方をする人もいる。保育の専門性を認識する社会になってほしい」と訴えました。

幼稚園教諭の時任寛美さん（25）は、スタッフとして受け入れるためには「知識や倫理観を身に付けてもらう必要がある」と語るなど、幼児教育を巡り活発な議論が繰り広げられました。矢倉委員長は「処遇改善や事務負担軽減を進めると同時に、意義のある仕事だということを政治のメッセージとして発信したい」と述べました。他にフリースクールの支援や、若手研究者の待遇改善などを求める声が上がりました。

三浦信祐青年局長（参院議員）は7日、川崎市内で開かれたユーストークに出席し、20～30代の社会人、学生計18人と活発に意見交換しました。「要望、質問、遠慮なく発言を」。三浦局長が呼び掛けると、大学4年の小林英明さんが「奨学金の返還が心配」と声を上げました。三浦局長は、所得連動返還型奨学金や企業が返還を支援する制度を紹介。その上で「支援の拡充を強力に進めたい」と語りました。

川崎市



「皆さんの声を政策に実現する」と強調する三浦局長（右から4人目）＝7日 川崎市

会社員の川端祐樹さん（27）は、子育て世代への支援について質問。三浦局長は「青年委員会が実施したVOICE ACTION（ボイス・アクション）で幼保無償化を訴えた。現場の力が決定打となり、無償化が実現した」とVAの意義を強調。私立高校の無償化も着実に進んでいることを説明しました。不妊治療の充実を求める声も。会社員の藤原健悟さん（35）は「悩んでいる友人が多い。保険適用ができないか」と話しました。三浦局長は「全国で要望を伺う話だ。保険適用は簡単ではないが、支援の充実には必ず取り組む」と強調しました。大学3年の今池輝一さん（21）は「消費税廃止を訴える政党がある。増税の必要はあったのか？」と尋ねました。三浦局長は、社会保障の充実に使われていることを説明。「消費税を廃止すれば、年金、医療、介護、子育てに大きな悪影響を及ぼし、結局は、冷たい政策」と話すと三浦局長に、今池さんは「よく分かりました」と応じました。この他、会社員の染谷紗希さん（26）は「産休、育休を取りやすくしてほしい」と要望。大学4年の長谷川利奈さん（21）はゲーム依存対策の推進を求めました。

両会場ともにトークは盛り上がりを見せ、あつという間に終了時間に。アンケートを記入しながら、議員に語りきれなかった思いを伝える参加者の姿が印象的でした。